

## 令和5年度 評価報告書に係る院内取組状況

## 基本目標1 地域医療構想等を踏まえた当院の果たすべき役割・機能(No.1～No.4)

項目	No.	評価報告書指摘事項等	検討・報告内容
1 機能分化 (当院の果たすべき役割)・ 機能の促進	1	DMAT隊員育成人数について、隊員増員に向けて院内での働きかけを実施するも、令和5年度の隊員養成研修参加者がなかったものであるが、研修参加の希望者がなくとも毎年計画的に数名の育成を実施すべきものとする。	令和6年度は2名(臨床工学技士、作業療法士)が日本DMAT隊員要請研修を受講し、令和7年度は1名(看護師)が受講予定です。今後も計画的に受講を継続する予定です。
	2	地域がん診療連携拠点病院に係る取組項目の内容が、ほぼ達成されていることは評価する。後志管内唯一の地域医療支援病院の役割として、各種研修やセミナー開催などの取組は継続していく必要があるものとする。	小樽・後志がんセミナーは令和6年6月13日、令和6年10月21日に、がんに関する内容をテーマとした市民向け公開講座は、小樽市保健所、市立小樽図書館と連携して令和6年9月26日に実施しました。令和7年度においても取組は、継続していく予定です。
2 連携強化 (地域の医療機関等との連携を強化)	3	今般、地域医療支援病院に承認されたことから、管内医療機関への広報などの施策を積極的に行い、収益向上につなげていくことが必要であるものとする。	紹介患者の紹介率・逆紹介率について、維持・向上に向けて連携強化のための病院訪問等を継続して実施しております。令和6年度の紹介率は平均70.6%、逆紹介率は平均119.5%となり、目標を大きく上回って達成することができました。
5 医療機能 や医療の質の 向上	4	患者満足度の向上に係る患者満足度調査について、コロナなどの外的条件に左右されない工夫をして、実施する必要があるものとする。	患者満足度の向上に係る患者満足度調査について、令和6年度では検討を進めたものの調査は未実施となりました。令和7年度はPX(患者経験価値)を用いた調査を実施する予定です。

## 基本目標2 医師・看護師等の確保と働き方改革(No.5~No.6)

項目	No.	評価報告書指摘事項等	検討・報告内容
1 医師・看護師等の確保、若手医師の確保	(2)職員の採用に向けた学生等への働きかけ	5 職員の採用に向けた学生等への働きかけについて、採用のみならず、病院のプロモーションという側面からも実習生は積極的に受け入れていただきたい。 実習生の受け入れについては、地理的な問題があり難しいところがあると考え、引き続き地道な努力を望む。 今後さらに人材確保が厳しくなる中、前広に働きかけを継続していくことが重要であり、職員採用に向け、さらに積極的な取組に期待する。	実習生の積極的な受入れの取組は継続して実施しており、令和6年度において各部門の目標を達成又は概ね達成しております。 また、初期研修医にかかる取組の評価指標として、令和6年度より新たに「見学生の満足度」を設定し、満足度100%を目標としております。令和6年度の実績は、見学生に対応した指導医、研修医、その他職員への好意的な回答が多く、「満足、やや満足」を合わせて満足度100%を達成しております。
2 医師の働き方改革への対応	(1)医師の働き方改革への対応	6 医師の働き方改革への対応について、時間外勤務の長い医師については、意識改革が必要であり、特定の職員の勤務時間が過重にならないよう、引き続き、適切な勤務時間管理を行う必要があるものと考え。	時間外・休日労働時間数の多い医師に対する面談は、該当者がいる場合は実施しております。令和6年度においては、目標の960時間を超過する事例はなく目標を達成しました。

## 基本目標3 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組(No.7)

項目	No.	評価報告書指摘事項等	検討・報告内容
1 感染症指定医療機関としての役割・機能	7	BCPの策定は大変であり、中々進まないことは理解できるが、策定の必要性を認識したうえで、コンサルタント会社の活用なども検討し、速やかに策定されることを望む。 感染防止対策マニュアルの改訂は、大きな変更は必要ないため、状況に合わせて毎年の定期的な改訂をしていただきたい。	新興感染症発生時における診療継続計画(BCP)の策定について、コンサルタント会社の活用なども議論しましたが、結論を得ることができず令和6年度も策定に至っていない状況です。現在、ICT(感染対策委員会及び感染対策チーム)部会メンバーが所属する部署にBCP案の提出を依頼して作業を進めているところです。 感染防止対策マニュアルの改訂は、定期改訂が想定より多く一部は翌年に持ち越している状況ですが、実施しており、令和6年度の目標を概ね達成しております。

## 基本目標4 施設・設備の最適化(No.8)

項目	No.	評価報告書指摘事項等	検討・報告内容
2 デジタル化への対応	8	デジタル化への対応について、国からの指示を待って対応せざるを得ない状況であり、院内の取組について、現状でやむを得ないものと考え。 RPA化の可能な業務を選別し、RPA化への移行や時間外勤務等の削減に期待する。	令和6年7月に自動再来受機を更新して、マイナンバーカードの保険証利用に対応する体制整備を実施しました。 業務のRPA化について、令和6年6月より開始し、現在までに5件を実施、2件が実施に向け調整中で、更に拡大していく予定です。 令和7年度は医師へのスマートフォンの導入により画像を含む診療情報を関係医療機関と共有する取組を進めながら、AI問診、生成AIの活用なども予定しており、デジタル化による業務の効率化を推進していきます。

## 基本目標5 経営の効率化等(No.9~No.12)

項目	No.	評価報告書指摘事項等	検討・報告内容
2 民間病院等の経営手法の研究	9	□民間の経営手法の取り入れなど、意識醸成を含めた経営改善に向けた取組は、継続していただきたい。	民間病院の手法を参考に、令和6年4月より、病院長、病棟担当副看護部長、患者支援センター次長がベットコントロール担当として、週に2回病棟を回診し、長期入院患者の状況、医療ソーシャルワーカーの介入状況、病棟ごとの週次入院数、回転率等の確認を行い、ベットコントロールを効率的に行う取組を実施しております。令和7年度は、各病棟にデジタルサイネージを設置して、ベットコントロールの状況について「見える化」を進める予定です。
3 収入増加・確保対策	10	リハビリテーション総合計画評価料の算定率が低いことは問題である。	令和6年度においては、病棟の協力を得ながら、リハビリ介入後速やかに計画書を作成、早期退院患者に係わる算定漏れを防止できるように、算定率は目標をの75%を上回る80%を達成しております。
4 経費削減・抑制対策	11	医療材料のコスト削減について、資材高騰の影響などにより大変厳しい状況だが、削減の取組は継続していただきたい	令和元年度より取組を始めた、診療材料費の共同購入事業にかかる令和6年度の効果額は前年費より601万円増加した4,601万円となり、目標の800万円には届かなかったものの達成率は75.1%と概ね達成しております。令和6年度は、新たに償還価格のない診療材料について購入額の大きい物を抽出して、強力に減額交渉を行いながら、一部安価な代替品に変更するなどの取組を実施し、削減効果額は年換算で1,312万円となりました。診療材料の値上がりは続いていますが、引き続き削減の取組について進めていく予定です。
	12	時間外業務の業務内容の精査は、RPA化できる業務の有無などを検討していく必要性からも、今年度必ず進めていただきたい。	時間外業務の業務内容の精査は病院全体としては進んでいない状況で、抜本的な業務内容の見直しには至っておりません。個別に業務内容の精査に取り組んでおり、効率化に係る検討も進めているところで、RPA化などを推進することより、時間外業務の削減に努めていく予定です。
		(6)時間外業務の削減	

## 基本目標5 経営の効率化等 (No.13～No.14)

項目	No.	評価報告書指摘事項等	検討・報告内容
5 その他	(1)人材教育・育成の推進	13 人材育成は各業種共通の課題でもあり、着実にスキルアップを進められるよう、毎年継続して行い長期的に取り組むことが必要と考える。	病院が選抜した職員について、全国自治体病院学会への参加費用を補助する取組を例年継続しております。また、各部門の認定資格について、人事異動も考慮しながら計画的に取得・更新しております。
	(2)職員が安心して働ける職場環境づくり	14 患者満足度を高めるには従業員の満足度を高める必要があることから、人材確保のためにも職場環境満足度調査は早期の実施を望む。	職場環境満足度調査の実施に向け、具体的な検討を行いました。令和6年度は実施に至りませんでした。令和7年度は外部有識者の助言を得て、病院全体を対象とした調査を行う予定です。